

## スクールソーシャルワーク演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「SSW演習」では、個別事例へのアセスメントはもちろんのこと教育行政や学校の動き、地域を把握し地域全体をアセスメントする力を培う。また、SSW実践、特にマイクロ・メゾ・マクロプラクティスについて体験的に習得する。さらに、記録やデータ蓄積など説明できる力と効果測定を行う力を身につける。

### 【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション  
：「SSW演習」の目的、沖縄県内のSSW事業の現状
- ②SWの価値  
：「社会福祉士倫理綱領」、「SSWrの活動指針」
- ③学校・地域のアセスメント  
：学校、県・市町村教育委員会、教育センター、適応指導教室及び学校を支援する人材
- ④マイクロプラクティス  
：支援プロセス(アセスメント、プランニング、インターベンション等)、ソーシャルワークスキル
- ⑤メゾプラクティス  
：チームアプローチ、ケースマネジメント、校内ケース会議、拡大ケース会議
- ⑥マクロプラクティス  
：学外の社会資源の活用、市町村の子ども相談体制、「連携」の意味、ソーシャルアクション
- ⑦記録・スーパービジョン・評価  
：記録の意義、データの蓄積、説明責任、効果測定、スーパービジョン体制の確立
- ⑧まとめ

### 【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

### 【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

### 【テキスト】

日本スクールソーシャルワーク協会編(2008)『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

### 【参考文献】

- ①門田・鈴木編著(2010)：『学校ソーシャルワーク演習－実習のための手続き』、ミネルヴァ書房。
- ②門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』、ミネルヴァ書房。
- ③学校SW学会編(2008)『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規。

## スクールソーシャルワーク実習指導

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

「スクールソーシャルワーク実習指導」では、スクールソーシャルワーク（以下、SSW）実習の意義について理解する。日々子どもたちが過ごす学校現場を知り、学校の組織について体験的に学ぶ。また、子どもや学校、教職員から自己（スクールソーシャルワーカー：以下、SSWr）に求める課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

### 【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション：「スクールソーシャルワーク実習指導」の目的
- ②子ども・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成及び子ども・家族への権利擁護
- ③校内のケース会議、拡大ケース会議及びチームアプローチ
- ④SSWrとしての職業倫理
- ⑤個人のプライバシー保護と守秘義務
- ⑥実習計画の作成
- ⑦見学実習及び現場体験学習
- ⑧まとめ

### 【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境（学校・教育・福祉・地域）に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

### 【評価方法】

授業態度、出席状況、レポート等を総合して評価する。

### 【テキスト】

日本スクールソーシャルワーク協会編(2008)：『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

### 【参考文献】

- ①門田・鈴木編著(2010)：『学校ソーシャルワーク演習-実習のための手続き-』、ミネルヴァ書房。
- ②門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』、ミネルヴァ書房。
- ③学校SW学会編(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規。